

## 熊本県民医連職員のみなさんへ

職員も被災者です。まずは職員自身の健康と安全を守りましょう。

困ったところに民医連あり

支え合い、力を合わせて、この困難をともに乗り越えていきましょう。

2026 年 8 月 6 日

熊本県民医連会長 重岡伸一

### 1. 今回の地震による被害と地域の状況

2026 年 7 月 28 日 16 時 27 分頃、最大震度 7(宇城市・氷川町)を中心とした地震が発生し、県内広域で甚大な被害が生じました。特に、昨年 8 月豪雨で大きな被害を受けた八代市方面では、ようやく復旧の目途が見え始めた矢先に再び深刻な被害が重なり、地域住民の不安や苦しみは一層大きなものとなっています。

発災から 1 週間が経過しましたが、被害の全容はなお明らかではありません。酷暑の中、ライフラインが途絶えた状態での避難生活は、まさにいのちを脅かす過酷な状況です。

### 2. 職員自身も被災者であることを忘れずに

被害の程度に違いはあっても、私たちの多くが何らかの被害を受けています。家族や親戚、友人が深刻な被害に遭い、不安や心配を抱えながら日々を過ごしている方も少なくありません。

私たちは 10 年前の熊本地震を経験し、その後も度重なる災害を乗り越えてきました。しかし、経験を教訓化していても、心身にかかるストレスや不安は決して小さくありません。あらためて、**私たち自身も被災者であることを自覚して、まずは、ご自身とご家族の安全・健康を最優先に、日々を過ごしていきましょう。**そのうえで、医療・介護従事者として、**今、できることを一つひとつ落ち着いて取り組んでいきましょう。**職場の中でも、お互いの状況や気持ちをぜひ共有し、支え合っていただければと思います。県連対策本部としても、職員のメンタルヘルス支援体制を整備し、対応を進めていきます。

### 3. 熊本県民医連の対応

熊本県民医連では、発災当日の7月28日 17 時に災害対策本部をたちあげ、職員の安否確認、被害状況の把握、情報収集を開始しました。同日 18 時から全日本民医連とオンラインで第 1 回会議を開催し、翌日から人的支援を受けています。また、八代中央クリニックの旧通所リハビリテーションを開放し、被災した職員や地域のみなさんにシャワー浴を開放するなど支援活動を進めています。

10 年前の熊本地震での経験を生かし、熊本県民医連は次の 3 点を方針として掲げました。

- ①職員の健康を守る
- ②事業所の医療・介護活動を継続し、患者さん・友の会・地域住民のいのちとくらし、健康を守る
- ③過酷な状況で避難生活を強いられている方々を、誰一人取り残さず支援する

支援の長期化が予想されます。厳しい状況ではありますが、職場内のコミュニケーションを深め、支え合い、力を合わせて困難を乗り越えていきましょう。全国の民医連の仲間から励ましの言葉も届き始めています。全国の仲間の支援も受けながら、「困ったところに民医連あり」の力を発揮していきましょう。

### 4. 管理者のみなさんへ

管理者のみなさん、決してひとりではありません。いつでも、どこでも、支えてくれる仲間がいます。

一人で抱え込まず、「困った」の声をあげてください。そして何より、**ご自身のセルフケアを忘れないでください。**